

4年生

本会公開授業

授業レポート

子どものイマジネーションの連続性・偏向性

——子どもにとっての境界領域——

■教材『はまべのいす』山下明生

中川 節子
關 新市郎

一、日時

平成十年八月二十日（木）
午前十時十分～十時五十五分

二、児童

静岡県加茂村立安良里小学校 四年
関新市郎学級（男子五名 女子七名）

三、授業形態

児童の言語生態研究会会員によるチームティーチング

四、授業テーマ

子どものイマジネーションの連続性、偏向性を知るための研究授業

五、領域

感情

六、テーマ設定の理由

子どものイメージは一枚の絵のように固定化されたものではなく、次から次へと流れていく。その流れそのものを「イマジネーションの連続性」と本会では名付けているが、この流れ方には偏向性が伴い、その偏向性故に、個性にもなりうると考えている。

その偏向性が自分自身の時間・空間のイマジネーションを癖として縛り上げる子どももいれば、新しい刺激を受けることで、時間・空間の転換が自在となり、自分のイマジネーションを更に伸ばす子どももいる。今回の授業では、ある設定された場面に於いてイマジネーションの胎動、あるいは動向がどこまで広げうるのか、又そこに連続性や偏向性が個々の子どもによってどのように発揮されるのかを見届けようとするのである。

授業では「すなはま」「いす」「海」といった子どもたちの潜在世界と接触するための言葉をキーワードとして用い、それを窓から見ている「ひろ君」を場面と

して設定する。その場面設定の中にはイマジネーションの発動のための装置として「窓枠」を用いる。枠による空間の限定は視野と視点を定めることになる。視野と視点が定まることによって、そこに別次元が成立する。従って潜在世界からの投影即ちイマジネーションの触発が期待されるのである。

また「夕日」や「闇」を子どもたちに提示するのは、子どものいのちの発露を潜在世界に求めようとしているからである。

七、本時の目標

設定された場面から思いつくイマジネーションの動きを次から次へと話す

学習活動	学習への支援 ※観察の視点
<p>一、本時の学習を知る</p> <p>二、だれがおいでいったのか、すなはまに、さすがぼつんとありました。ところどころペンキのほげた白いいすです。いすはだれかをまつように、じつと海を見ています。病院のベッドの上でひろ君もずつといすを見ています。(すなはま、いす、海、山下明生 光村3上)</p> <p>このあと頭に浮かんだイマジネーションの動きをとまらないうように話す。</p>	<p>○設定された場面から思いつくイマジネーションの動きを次から次へと話すこと</p> <p>設定された場面を意識させるために窓わくを使用し説明をする。</p> <p>1、窓わくを使用し設定された場面を確認する。</p> <p>2、一度読んだあと、どんな場面が残っているか言ってもらい窓わくにいすの配置をし、ひろ君の視点の動かないことを確認する。(すなはま、いす、海、ひろ君の視点)</p> <p>○第一段階としてこの場面より触発されたイマジネーションの動きをできるだけたくさんの子どもが話すように支援する。</p>

<p>三、ひろくんは夕日を見ています。</p>	<p>このあと頭に浮かんだイマジネーションの動きをとまらないうように話す。</p>	<p>四、夜になりました。</p> <p>このあと頭に浮かんだイマジネーションの動きをとまらないうように話す。</p>	<p>五、このあとどうなるか、頭に浮かんだイマジネーションの動きを話す。</p> <p>六、まとめ(感想を言う)</p>
<p>○窓わくを利用し、設定された場面に夕日という時間経過を入れていることをおさえる。(すなはま、いす、海、夕日、ひろ君の視点)</p>	<p>*夕日が入ることによりトランスフォーメーションがおこるか。</p>	<p>○窓わくを利用し、設定した場面に夜のやみがきたことをおさえる。(すなはま、いす、海、夜、ひろ君の視点)</p> <p>*夜が入ることによりトランスフォーメーションがおこるか。</p>	<p>*今まで自分が考えていたイマジネーションの動きの延長上で考える子</p> <p>●トランスフォーメーションを起こすことができる子</p> <p>●朝にもどる子</p> <p>●夢の世界に入る子など</p>

- 設定された場面から思いつくイマジネーションの動きを次から次へと話すことができたか。
- 時間経過に伴うことばを出すことによってトランスフォーメーションができたか。

授業記録

<p>Tn 一緒に勉強したいと思います。勉強といつてもね、頭の中に浮かんできたことをお話ししてもらいますね、いいですか。ちよつと練習しますよ。目をつぶって目をつぶって。はい、お母さんを思い浮かべてください。お家の人のことを思いだして下さい。さあ、どんなことが頭の中に浮かんで来たかな？ 出た？</p>	<p>Ca (目をつぶって) 怒りっぽい。お父さんもお母さんも怒りっぽいよ。</p> <p>Tn ほかに？</p> <p>Ca たばこを吸うしね。おばあちゃんでもいい？おばあちゃんはやさしい。</p> <p>Tn ほかにないかな。思いついたことを言えばいいんだよ。はい、もう一回目をつぶって。今度はちがうことを思い浮かべてみよう。「関先生」、はい「関先生」は出てきたかな？ 関先生を思い浮かべてみてください。</p>	<p>Tn (周囲に向かってしきりに) あれ言えば、あれ。じゃあ、君。</p> <p>Ca 「太鼓オタク」</p> <p>Tn 関先生、太鼓上手なのかな？</p> <p>Ca 「太鼓」と「禪男」。「禪男」に「太鼓オタク」「禪男」ってひょっとして「禪」のこと？</p>	<p>Tn Ca Tn Ca Tn Ca</p>
--	--	---	--------------------------

Ca そうなんだよ。いつも禪をしめているんだよ。
Tn もう一つ聞こえなかったけど。

Ca 「太鼓オタク」いつも太鼓ばかりやっているんだもん。

Tn このクラスで太鼓やっている人はいる？

Cc ぼく、関先生に太鼓を教わっている。

Tn はい、いいかな、そういうふうだね、今日はね、頭の中に浮かんできたことをお話してくれればいいのよ。いいかな。難しそうだな？ 大丈夫そう？ じゃあね、ちよつと紙を。(模造紙を黒板に貼る) みんなで読んでもらおうかな。まず、先生が読みますからね。ちよつと聞いていてね。

だれがおいていったのか、砂浜に、いすがぼつんとありました。ところどころペンキのはげた白いいすです。いすはだれかをまつように、じつと海を見えています。病院のベッドの上でひろ君もずつといすを見えています。(黒板に掲示)

Tn わかったかな？ じゃあみんなで読んでみようね。

C (揭示物を音読)

Tn いいかな、わかったかな。だいたい。だいたい場面が思い浮かぶかな？ じゃあ本当に思い浮かぶかちよつと目をつぶってみてください。今の場面で何が出てきましたか？

Ca いす。

Tn いす…。それから？

Ca ひろ君。

Tn ひろ君。それから何が出てきた？

Cd 海。

Ca ペンキ。

Tn ペンキも出てきた？ 他に？

Ca ベッド。

Tn あつ、ベッドも出てきた。

Ca 病院。

Tn 病院も出てきた。

Ce 砂浜。

Tn 砂浜も出てきた。すごいなあ。じゃ、目を開けてみて下さい。じゃあね、病院のベッドの上でひろ君もずつといすを見えています、つていうんだから、ひろ君といすとの間には何かあるんだよね。何かあるんだと思う？

Ca ガラス。病院の窓。

Tn (額縁を出して)これ、病院の窓です。いいかな？そして何が出てきたつけ？ 病院の窓からいすが見えました。(椅子の工作模型を出す)いすはどっちに向いているのかな？

Ca 海の方。

Tn 海の方だね。こんな感じでいいのかな？

Ca でも、安良里の海は(海の方を指さして)あつちだよ。

Tn おうおうおう。じゃあボク出てきてごらん。やり直して。(Caがいすの位置を模型を使い操作して)

Tn そうだね。あと何があつたつけ？

Ca ひろ君。ベンチじゃない。ベッドの上にいる。

*この児童は早くもこの授業の設定がわかりどんどんリードしていった。

Tn ベッドとひろ君はどこにあるのかな？

C ……

Ts b子さん、どう？

Cb 意味が全然わかんないよ。

*まだ設定がわからずふてくされている。今までやった授業と形態が異なるのでとまどいがある。

Tn 難しいんだね。さつきお話した中であつたよね。お話した中のことを頭に思い浮かべてくれればいいんだよ。他にどうですか？ ひろ君、どこにいるのかわかる？

Cc 病院のベッドの上。

Tn うん、病院のベッドの中だね。じゃ、場所はどこになるのかな？どこにいるのか教えてくれるかな？(Cbを前に出してきて)あなたひろ君の場所どこだと思う？

*わからないを連発していたb子さんを指名し場面設定の位置づけを手伝ってもらうと、横を向いていたb子さんが徐々にこちらを向いてきた。

Cb (額縁のそばに立つて)ここ。

Tn こっち側だね。(Cbを返す)わかったかな。こっち側(額縁の正面)にいます。

Tk この、ちよつと病院に花を置きましょう。(バラの花瓶を持ってきて)病院の窓だからこのへんになるかな。みんなは病院にいるんだよ。

Tn そして、ひろ君になって。そしたらいすがあつてそして何があるのかな？

Ca 海。

Tn 海があつて、そして…

Ca その前に、いすの下に砂浜があるよ。

Tn おお、砂浜がある。砂浜のところにいすがちゃんと置いてあるんだよね。そしてその向こうが海だったんだよね。b子ちゃんもわかったね。そういう場面なんだ。いいかな？そしたら今度はみんながひろ君になって、このあとちよつとね、頭に浮かんだことをお話してもらいたい。

「だれがおいていったのか、砂浜に、いすがぼつんとありました。ところどころペンキのはげた白いすです。いすはだれかをまつように、じっと海を見えています。病院のベッドの上でひろ君もずつといすを見えています。」

はい、そのあと頭に何か浮かんできた？

Ca ずうっと見ていたけど、何も起こらなくて、何もつまらなかった。

*設定はできたが、その後の思いをのばしていくことは難しい。

Tn え、え、すごいね。そういうのいいんだよ。少しずつ、少しずつ……いっぱい思い浮かべていってください。こんなの出たよっていう人？ お話になっちゃったっていいんだよ。

C ……

Tn じゃあねえ、ここをちょっと見てください。「いすはだれかをまつように、じっと海を見えています。」って書いてあるけれども、いすは誰を待っているのかな？

Ca ひろ君。ひろ君が退院するのを……

Tn あっ、ひろ君が退院するのを待っているんだ。そうかもしれないね。そしたらちよつと見てね。ほら、ずうつと見ていた。何も起こらない、つまらないって君は言っただけど、何も起こらなくはないじゃない。

Ca 今のところはそうなの。

Tn でも今は少し思い浮かんだんじゃない？

Cc ひろ君は退院したから嬉しかった。

Tn あっ、ひろ君は退院したから嬉しかったんだ。今はベッドの中なんだけれども、退院したら嬉しいなって思っただね。他にないかな？ 誰を待つ

ているんだろうなあ。

Ca ひろ君。

*自分自身がひろ君になり切れない。

Tn ひろ君を待っているんじゃないか、か。君はひろ君だと思うんだよね。でもひろ君じゃなくなっちゃったいいんだよ。

Ca ひろ君のお母さんだっていいんだよ。

Tn そう、ひろ君のお母さんだっていいんだよ。じゃあさっきのひろ君の話を続けてもらおうかな？

Ca つまらないけど、ぼくが退院したらすごく喜んでくれる。

Tk (板書を整理して) じゃ、それはここにしちゃうよ。(と、退院という言葉を書いた後の方へ移動) だって、これで終わっちゃうじゃない。

Tn ひろ君(ベッドのある側を指さして)ここにいるんだけどベッドの中にいるから(外の景色が見えるんじゃないの？病院に(ひろ君がいるから)窓から見えるんだよね。

Tk (これまでの発表を見て) こう言ってくれてこっちに行っちゃったら、つまらないよ。

Tn もうちよつとお話してみて。さあ、だれがいつに来たのかなあ……。広い浜のところにいすがぼつんとあつて……。さあ、誰が来たかなあ……。

Ca いすの思った気持ちで言うのと、つまらないと思う。

Tn いすの思った気持ちね。いすがつまらないなあ、って思っただって。そうだよ。だってまだ、だあれも来てくれななんだもんね。そのあと続けて……

Ca そしたらひろ君のお友達とかが、いすにすわって

くれた。

Tn どんどん言ってみて。ひろ君のお友達がいすにすわってくれた。いすはどうなったと思う？

Ca とてもうれしかった。

Tn あ、うれしかったんだね。

Tk 退院する前からいすを喜ばせてあげてもいいんだよ。

Ca 次にひろ君のお母さんが来た。

Tn ふーん、次にひろ君のお母さんが来てくれたんだ。ひろ君のお母さんがいすにすわってくれてどうしたと思う？

Ca おばさんはそのいすに座ってくれてその次におばさんはペンキを持ってきてくれて、そのいすにペンキを塗ってくれた。

Tn そう、それひろ君のお母さん？ そうか、ひろ君のお母さんははげているペンキをぬってくれたんだ。なるほどね。

Ca だからいすはうれしかった。

Tn どんどん出てきてるよ。がんばれ。他の人も考えて。

Cc そして次にはひろ君が退院してうれしかった。

Tk それは最後でいいから。それ、とっておこう。

Ca その間を考える。

Tn こっち(退院)に行っちゃったら、いすを見る人がいなくなっちゃう。もうちよつと考えて。

Ca ひろ君のお父さんが会社帰りに寄ってきた。

Tn ああ疲れた疲れたってかな。みんなもやり方がわかってきたんじゃない？ 一人にまかせないでみんなも頑張ろう。

Tk もう一回窓を見てください。みんなは元気でさあ、毎日毎日海で泳げるじゃない。でもひろ君

は海では泳げないし、学校にも行けないんだよね。

Ca そしたら次にひろ君のお姉ちゃんが座ってくれた。

Tk a君さあ、本当はひろ君はつまらないよ。ずっと病院にいたから何も出来ないんだもん。でもひろ君が君だったらつまらないねえ。だって病院にいたってさあ、いろいろできちゃうもん、心は。心でいろいろできちゃうじゃない。だから今日は、みんなに、a君みたいに、何にもできなくても何でも思えちゃうって、そういう勉強なの。もしかして君はお姉ちゃんいるの？

Ca いない。親戚にはいるけど。もう一つあるんだけど…。

Tk ああ、ごめん。何？

Tk ひろ君のお姉さんが高校の帰りにいすに座ってくれた。

Tk a君にまかせているとどんどん出てきそうだね。もう三人浮かんでいる。

Tn Ca Tk いろんな人が登場してくるね。a君はすごくいいことを言ってくれたの。退院したらひろ君は自由になれるしね。幸せだし、めでたしめでたしだね。でもそれはずーっと先の方に置いておくから、その途中を考えて。ここまでa君が考えたから、私だったらまだこんな楽しいことがあるじゃないかっていうことや、逆につらいことになってもいい。怖いことになってもいい。ちょっと考えてみて。

Tn でも今、いすのことばかり出ているけれども、いすだけじゃないんだよね。ここに用意してあるのはいすだけだけれども、いすの下には？

Ca 砂浜。

Tn 砂浜の向こうには？

Ca 海。

Tn 海もあるんだよ。砂浜や海…全然登場してないね。それも登場させてください。自然のテレビ画面だね、ひろ君から見ればね。このテレビ画面みたいなのに思いついたことを言ってくればいいんだよ。

Ca その次に弟が海に来ていすに水をかけた。潮水。ちよっと変わったね。

Tn Tk 他にどうかな。いつもいつも浜で、海でみんながやっていることを言ってくれてもいいんだよ。学校のそばに海があるよね。毎日遊んでいるんじゃない？

Ts b子さん、どう？

Cb (笑みを浮かべながら) 海から死んだ女の人と子どもが歩いてきて、そのいすにすわって子どもをあやした。

*さつきわからないと横を向いていた児童である。設定がしつかりとできたら、どんどん思いをのばすようになった。つまりイマジネーションが次から次へと動き出した。この児童の発言で他の子も心の風景が語られ始めた。

Tn 背筋がゾツとしてきたね！

Tk 何かワクワクしてきたよ。

Tn うわあ、すごい。特大のホームランが出たね。とたんにこのテレビ画面が面白くなってきたね。

Tk b子さん、続きは？

Cb ……

Tn Tk もう先生、この辺がゾクゾクゾクって…。なんか新しいドラマがダーンと…。

Ca b子ちゃんのと違って、別の方で、潮水をかけてあげて、夜になったら海で男の人が泳いでいて、泳いでいたらいきなりそこに子どもの幽霊が出てきた。

Tk 幽霊が子どもなんだね。

Ca その次に…

Tn (ストップをかけて) もつたないから、書いてもらおうかな。

Tk a君のもすごく面白かったし、b子さんのを聞いたらそれをもすごく面白かったし、みんなのもきつーというと思うの。

Tn こんなを書いたら変かな、なんていうことは全然ないんだからね。

*それぞれワークシートに書き込む。

*席順に発表してもらおう。(発表の間の教師の言葉はほぼ省略)

Cj (男) 死んだ人のゆうれいがでた。それは夜だった。子どももこわくてにげだした。

Cb (女) 夜になって海から女の人と子どもが歩いてきて、いすにすわって子どもをあやした。その夜ひろ君のゆめの中に、あの女の人と子どもがでてきました。つぎの朝、たまたまこんごさんの話を聞いてしまいました。「あの砂浜は、この病院で入院していて飛び降り自殺した人のゆうれいがあのいすにすわるらしいよ」

それで次の夜、花子さんといっしょに子守歌を歌いながら消えていった。それで見ていると花子さんがあらわれて話をしてくれた。つぎの夜まだから見てもゆうれいはいなかった。ただ聞こえてい

るのは、あの子守歌と波の音。それから一週間たつてとなりで赤ちゃんが生まれて、その赤ちゃんがあの女の人のにっていた。

でもちゃんと幸せになるんじゃない。

Tk その赤ちゃんは女の人の生まれかわりなんだね。

すごい。

Ck (女) それから海をずーっと見ていたら、お母さんがうかびあがったように見えて悲しくなった。それから毎日海を見るようになった。

Cd (女) 考え中。

Ch (女) ひろ君のお母さんがおみまいに来てくれら。次の日、海で人が泳いでいた。その人の背中にはゆうれいがのついていた。その日はこわくてねむれなかった。

Cf (女) …

*たたくさん書いていたが発表直前に消してしまう。消したことでいいと話すが、語りたがらないので無理強いしなかった。次のE君も消してしまつていて発表せず。I君は考え中。

Cg (女) a君の続き。子どものゆうれいは、いすに水をかけて、その中から出てきた霊でした。子どもの霊が海で泳いでいた男の人と間違えて恨みました。その男の人は次の日の朝、死んでしまいました。

Tn 恨まれちゃったんだもんね、霊に。何だかゾクゾクしてきたね。

Cc (男) 子どもたちが夜遊んでいた。そしたら海で死んだ人がゆうれいで出てきた。子どもたちはこわがってあわてて家に帰りました。そしてねたらゆめに死んだ人のゆうれいが出てきました。そしてまたねむれなくなっていました。

* a君が書き途中なので後にまわす。

Ci (女) その日、ひろ君はゆめをみた。そのゆめは、退院して海とかなに行つて楽しく遊んだゆめだった。その夢を見たからひろ君はそれから元気が出てきた。

Tn 夢で勇気をもらったんだね。

Ci 驚いたことにそれからは苦い薬をいっきに飲めるようになったし、ちゅうしゃもがんばれるようになった。

Tk 退院が近いね、もう。

Ca その次には海で泳いでいた男の人と子どもがおぼれてしまつて、死んでしまいました。そしたら、その男の人と子どものゆうれいが出てきて、海で泳ぐ人はみんなおぼれて死んでしまいました。そして朝になりました。そしたらひろ君は退院できることとなりました。だけど、ひろ君の病気が広がつてしまつて、手術をして何とか命をとりとめたけど、また入院してしまいました。それからまた退院して、また入院してのくりかえしをして、とうとうひろ君は最後に死んでしまいました。

Tn ああ、最後にひろ君、死んじやつたんだつて。

Tk じゃあ、さっきの後も考えちゃったんだね。

Tn I子さんみたいにメキメキ元気になったつていうのもあったね。b子さんの海から出てきた女の人が赤ちゃんとなつて出てきて…。全然違うお話だね。消しちゃった人たちもまた書いて二学期にS先生にみせてください。

*授業後に書かれた未発表児童の文

F子 ある日、海を見ていたら子どもが楽しそうに泳いでいたので、つられてひろ君も笑い顔になつ

てとつてもうれしそう。

E君 子どもがそのいすにすわつた。それからどこかに行つたら、動物が集まつてきた。

授業反省より

はじめのはまべの椅子の設定のところでa君がすぐその場面がわかり、私のかわりに説明してくれたので皆にその場面設定ができほつとした。次にひろ君になり思いをのばしていくところが難しいところだが、はじめ横を向いていたb子さんが今度は活躍しはじめた。どんどん思いを伸ばすことができ、そのb子さんに刺激され他の子どもたちも自分の思いを語り始めた。しかも刺激されながらもそれぞれがそれぞれのイマジネーションに動かされた思いを語ることができた。これはこの授業のテーマ、イマジネーションの継続性・偏向性をみることでできたとはいえると考える。

(Tn中川節子 Tk小林照子)

